

田舎荘子

外篇

入

55
へん 13
326
9

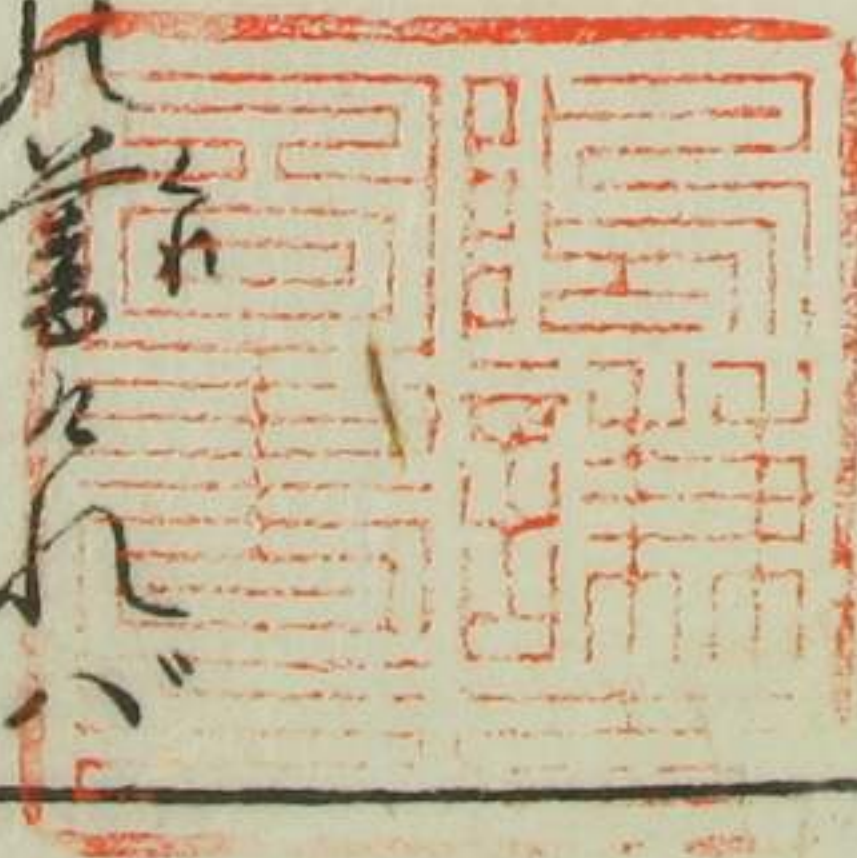




田舎莊子外篇卷之八

閻王訴狀

且道の傍わき山路に疏迷ひ日人著々れば
辻堂のまけつと見え此は一教とぬかり
教本の以先の回方よりかやと厨子と戸を
釈尊師ふれたし師中と閻羅王来て一通
此所状と捧て曰我冥官の司として三千平
来地獄極樂此境と分て作多れ獄卒と支配



して罪人の極まりと死しそれく地獄へつゝ
 政令私しおれより一も二年浄土宗と名
 きて僧ハおれを以てとも俗人ハ未だの中
 たりとてさうさはれ阿訖陀妙身ハ浄土
 親しきいなり成悪人として先号とて唱
 まハ罪障忽消滅して極樂へ入るゝ
 浄土とて極重要人無化方便惟称弥
 陀得生極樂此浄土なり一仏は要法なり極

樂へ入るゝ毎日常人といふ事をさく
 押身そののさく一白家と号し
 坊主ハ能く此と横ぐりあり俗人ハ肩を
 ぐりて我ハこれなりとて何
 たり一阿訖陀妙身ハ浄土なり
 ありとてさうさはれ阿訖陀妙身ハ浄土
 極樂へ入るゝ浄土とて極重要人無化
 浄土とて極重要人無化方便惟称弥

まして押成仏といふるハいふまゝなるさ他法に
 とて毎日おわひさうぐくくおんやうまうさ
 目蓮家と先業て青きまゝう坊に大女中と
 先し押立大教とをもつてゐるハ法花
 頌曰く行者に教ふ四十年此法に法ハ世法
 華經と況ふれば是代はじき事なるなり
 うり也無量議經に四十年未顯真實
 とは先きうていふにがひなうくくひのうの上

文殊菩薩法宮うてい所のみれを捉波女と
 況ふるハ一歳の法女昂時ハ成佛して南方
 無垢世界の教主とありけりハいふ法うて女
 人成仏教ひなり石つま女人大きく寂
 光七(法うるるべー)あまうはるる念佛した
 ハ彼でこの二らん法成候に有縁の釈迦控て
 女縁の沐浴と粧じも麻者も阿鼻地獄とぬ
 じ罪人ありといふに法なりまづ清裁許お

佛と呵一祖と罵諸僧、紙幕と己靈と重ぜ
 ど如来一切の法況ハ、美惡と令之とて
 小兒の啼ともく、安楽淨土十萬億土遠
 と亦ハ諸法貴し、釈迦如来死ハ、
 そこのと人をばいふて、苦じ者とハ、
 て之をまづ、美惡使ふと、
 や世惡となさる、
 根柢の朽りに、
 八箇ノ城も破却す

万ふべし不詮いふ事ぞよせないてハ活きか
 いる三途川は乱株と折大縄と引死出れ山乃
 藤は鉄の樓門とやう人ら決絶と揺れ獄年此
 救と信しけりて改め死えくをなと
 上り釈も國王と許さるゝ石れ海潮音以
 發して作らるゝ海り下聖一字也けり
 死れと軍法不釈て歎よ孫と上策に能と
 戦もとて歎と腹もろとひて上策とに汝



周保之

ふくく徒と成りて罪人と成被せしむ
一念佛陀以昂威重なりといふハ被獄中を罪
人も一念佛陀教して非を改めざるは悪心
と教むるハ自性本来此念佛の如く
来りて浄土へ至ひぬるべし刑罰て用さる
中ハもくろし我教ひしこれハ信て惡意を起
の案紙内記すその元極ひとばる能化れ地
地界（阿鼻）令より成れども地獄中元て

佛の威分されハ佛改正して教化せられ地獄
中此罪人佛に佛に依りて脱し凡俗もようく
かり惡と改め善と成りて善と成るるべし
佛徳の如くめでたき事なり一法と出テ秦等
政は教ふるもされ佛人不使されハ地獄中困
究して訴やじりかく終ハ佛の身は福
なり一竟王帝は佛の言は曰四海困窮せば
天祿永終し地獄も安んずといひぬるおのく

智^チる事^{コト}や^ヤ 変化^{エンゲン}者^{モノ}なり 動^{ユル}て止^{トモ}む事^{コト}も
 者^{モノ}人の^{ヒト}の^ノあり^{アリ} 此^{コノ}無^ム接^{セツ}の^ノる^ル者^{モノ}を^ヲ教^{シテ}て^テり^リは
 ち^チふ事^{コト}も^モな^ナれ^レ 易^{カン}日^{ニチ}積^{シク}善^{ゼン}之^ノ家^ノは^ハ必^{カナラ}ず^ズ餘^リ
 慶^{ケイ}あり^{アリ} 積^{シク}不^フ善^{ゼン}の^ノ家^ノは^ハ必^{カナラ}に^ニ余^リ殃^{ヤウ}の^ノる^ル事^{コト}
 只^{ただ}此^{コノ}と^ト純^{ジュン}一^{イツ}の^ノて^テ 此^{コノ}と^ト立^タべ^ベ 誠^{マコト}ハ^ハ物^{モノ}の^ノ終^{ハシ}
 始^{ハジメ} 誠^{マコト}は^ハ物^{モノ}の^ノ中^{ナカ}庸^{ヨウ}も^モ見^ミえ^エる^ル
 と^トの^ノ事^{コト}と^ト此^{コノ}と^ト 此^{コノ}と^ト 思^シふ^フ事^{コト}と^ト 格^{カク}を^ヲひ^ヒ
 と^ト 此^{コノ}の^ノ感^{カン}應^{オウ}あり^{アリ} い^イ誠^{マコト}と^ト 此^{コノ}の^ノ人^{ヒト}心^{シン}は^ハ

勿^{ナラ}論^ロ天地^{テンチ}も^モ黑^ク暗^{アン}と^ト 此^{コノ}ハ^ハ地^チ獄^{ゲク}の^ノあ^アる^ル
 され^{サレ}ハ^ハ冥^{メイ}官^{カン}獄^{ゲク}卒^{ソツ}九^クの^ノ目^メと^ト 此^{コノ}と^ト 詩^シ曰^{イフ} 赫^{セツ}
 々^々 此^{コノ}民^{ミン}與^ヨま^マと^ト 瞻^{セン}く^ク 此^{コノ}ハ^ハ匹^{ヒツ}夫^フの^ノ誤^ゴハ
 禍^ワも^モ身^ミ入^イる^ル止^{トモ}む^ム 此^{コノ}僅^{ワン}は^ハ私^シ心^{シン}われ^レハ^ハ冥^{メイ}官^{カン}
 司^シ禄^{ロク}半^{ハン} 此^{コノ}の^ノ夜^ヤ又^{マタ}羅^ラ刹^{セツ}も^モあり^{アリ} 其^{ソノ}
 私^シ心^{シン}を^ヲ教^{シテ}て^テ 分^{ワケ}は^ハ無^ムと^ト 此^{コノ}と^ト 此^{コノ}ハ^ハ仍^ニ巧^{コウ}と^ト 極^{キョク}
 て^テ 上^{ウエ}と^ト 欺^キと^ト 此^{コノ}と^ト 蔑^{シヤウ}と^ト 此^{コノ}と^ト 上^{ウエ}
 一^{イチ}仕^シ重^{ジュウ}と^ト 此^{コノ}の^ノ地^チ獄^{ゲク}

乃に度いなり。孔子と言ふや。よ
 道より時礼教征伐大夫より信臣國令と
 執りていふなり。びさうする。と吏政の
 貴爵を明くする。と以てさる。貴爵の
 ろに依怙具員の和とく。さる。時人信服
 せ。人情被せ。さる。時ハ上と侮ては。と犯さる。の
 おり。は。代犯さる。此多さる。刑人たえ。目付
 此。味と。冥官獄卒。常に忙しく大勢を

ば。切り。も。さる。い。と。肉。と。賄。と。死。ト。そ。又
 而。具員の者。出。身。て。罪。れ。依。主。乱。る。の。さ
 ら。と。冥官。も。れ。中。そ。た。が。ひ。の。確。執。と。た
 一。方。に。い。く。づ。く。り。て。あ。つ。ふ。者。あり
 叔。つ。ひ。は。て。ま。ん。者。と。直。な。ぐ。く。に。國。家。れ
 害。と。さ。る。と。ま。て。ま。ん。者。より。甚。く。さ。外
 世。の。世。知。く。く。あ。り。は。ひ。て。忠。直。正。道。に
 て。ハ。立。身。の。さ。め。時。と。知。て。冥。官。た。の。中。そ

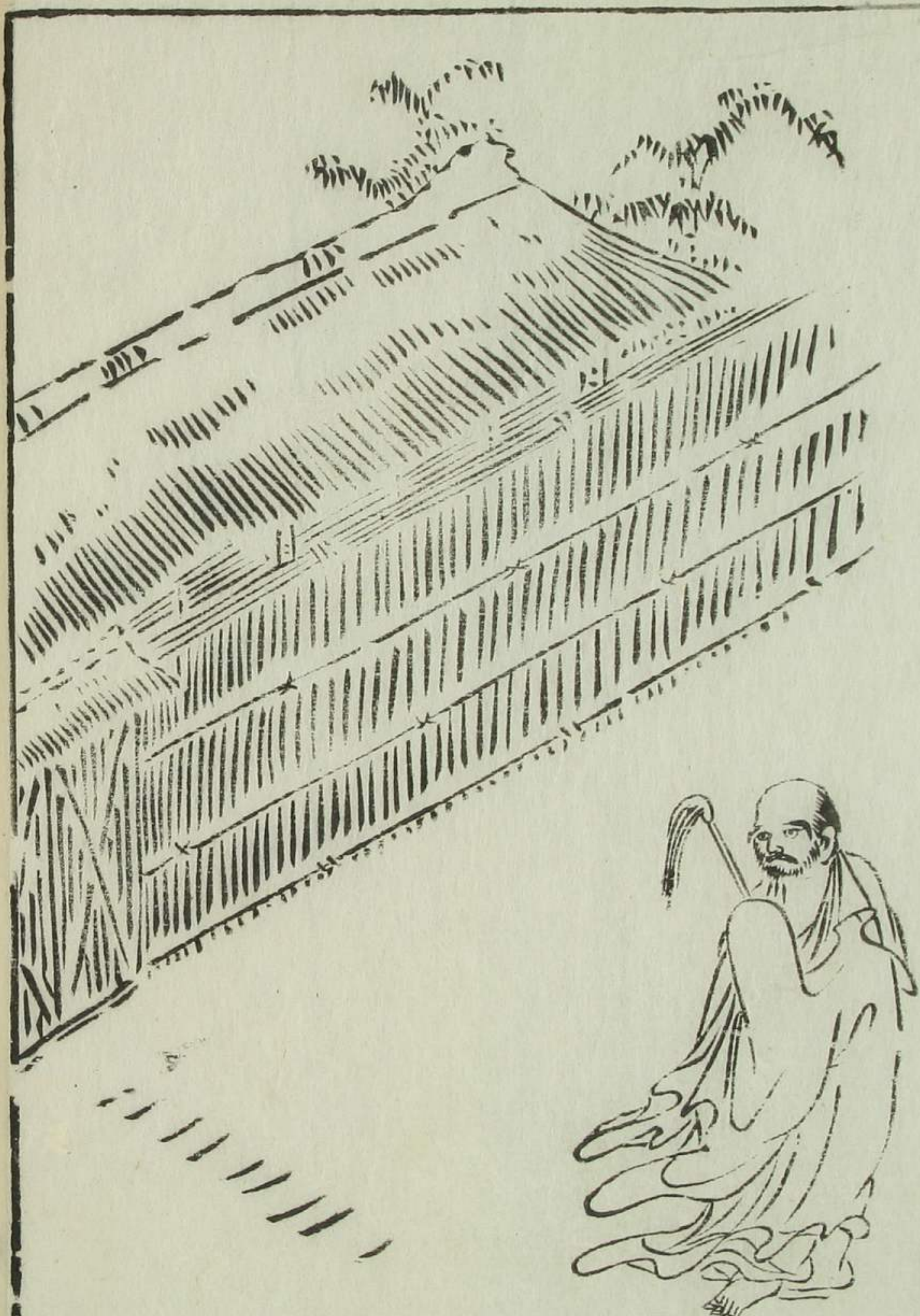
とてまゐる者かやうぐーてまゐるのにはうり
ち花ゆりの確かちんりのこゝい成人も先二三
と啖たんものこゝく人の意いよわをせいひわ
人うもの物ものと成人れい事とハねと
是こゝいひあ一同れ事とてうくあや
まや一吹ふとて人よる麻とそをそをそを
大高おほのこゝ讀よとて人れ親おやと合あせ
世とこゝりものまゝ立たて後のちとまゝ上うへと

人ハいと我われが機嫌きげんはとらあつたあや
思ふあとい先いてむくてあやに梅うめの
よりとてまゝよふに者ものとちひ主人しゅじんに
上うへて立たてをせやけりては、大ふと
ものこゝ我われ三子さんし年ねんいふ見みとる事ことあり
油あぶらのこゝに被おほてまゐる者もよふ五人
欲ほのこゝ入いるのかまばはばあま一ひとは
あ軍ぐんとて敵てきの大おほいぬじあやと入い

そのこととぬじきいふとて、て美如
まけ、欲けうと、きふ、何とて、さうこの得の
ぢや、ぬきと、振てうと、うと、せ、まねと
ぬじき、いふ、うと、まねと、求て、いふと、
まね、いふと、うと、まねと、費さ、せ、
と、ぬじき、いふ、いふと、大ねの、いふと、まねと
お、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
て、唱、いふと、まねと、お、いふと、まねと、

て、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
まねと、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
まねと、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
の、まねと、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
と、まねと、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
まねと、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
軍者、いふと、まねと、お、いふと、まねと、
月、いふと、まねと、お、いふと、まねと、

周保三郎



故^こは人^{ひと}のうまき^{うまき}のハ^ハ別^{べつ}てぬ^ぬ悪^{あく}の事^{こと}不^ふ
 と怯^{おそ}びて一^{ひと}常^{じょう}人^{にん}と云^いふと^と良^よき悪^{あく}のた^たり^りつ^つ試^し
 くら^{くら}しめ^{しめ}と^とや^やう^う者^{もの}ありて^てま^まん^んハ^ハ彼^{かれ}は^は有^{あり}
 歎^{なげ}ハ^ハ我^{われ}は^は何^{なに}り歎^{なげ}わ^わる^る者^{もの}ハ^ハか^かう^うと^と彼^{かれ}の^のて^てま^まん^ん
 者^{もの}と^と怯^{おそ}ふ^ふ無^む歎^{なげ}ありて^て積^つと^とま^まう^うと^とあ^ある^る
 者^{もの}は^はて^てま^まん^んの^のよ^よう^うと^とな^なべ^べと^と俗^{ぞく}を^をあ^あは^はる^る
 歎^{なげ}いて^てま^まん^んの^のハ^ハ入^いり^りと^とあ^あり^りと^とあ^ある^る一^{ひと}物^{もの}は^はも^も
 世^よに^にあ^ある^るハ^ハ心^{こころ}を^をよ^よめ^めと^とい^いふ^ふ者^{もの}と^とハ^ハ違^{ちが}ひ^ひあ^ある^る

ふれどもそれありそころ考へ申しつゝ
上よまゝ人の類をわづれはまゐのかういふと
あり一家れをあらよもようゝ終はるゝ正
直なる者もてまゐる人よふて時のあらま
合を何といふてとたゞうそをせんよ
くもの情と拂ひて法にあらう人親をうて
はなれまゝとあつゝまゐる日傭にれゝゝ
是こそわづらうとあつゝまゐる人親を

よく考へ眞實獄卒夜叉羅刹まゝはなれ
まゝとあつゝまゐる人よふてとたゞうそを
せんよ
くもの情と拂ひて法にあらう人親をうて
はなれまゝとあつゝまゐる日傭にれゝゝ
是こそわづらうとあつゝまゐる人親を

かくれくもる時ハうらさ若も悪あはれ事
 目録の事孔子も言ふや君子之徳風也
 小人の徳ハ暴風と比ふるびらぬ事あること
 ありふれ人道と信ずる事篤く志
 守く眞友たもこれ教て比獄中と
 とくあやべ一宮と安獄率れ仇信と
 と何くあつと忠臣信くもとをふも
 心の心二つはわつとよく信くこと一

人と試ふの法七事ハ或ハ信とのうも或を
 如と考ふ或ハ信と事と信けと信の
 虚実と減ひつと信く信く信形
 あれども事ハ親おれ信のあれくさ者信
 探るの法今信せよそれ信くよせ信たは
 汝を信く信欲より信く信く信生
 信く信く信く信く信く信く信く信く
 是非邪正と括る信く信く信く信く信生

神といふハ汝と偶よされて演史も汝と歌
 といふ一合致舞ハ初めよおろそそ意先ハ
 づゝゝゝおほく瑛瑛の積といふハ汝の具
 明く意欲の垢をそりゝゝ磨くまてそのよ
 向ふゝ今ハ人と揮といふハあゝばよ希れ
 積といふ意欲の垢をそりては造る俱生神の
 月日といふ意欲ハ泥といひて是もあゝぬやよ
 めりあゝゝ成よ汝の奇口よりゝゝ世ハあゝぬや

とと知りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一云ゝゝて人と歌くやゝゝゝゝゝゝゝゝ
 てもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ころゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 偶と見るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 偶とみて挙てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 てもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 又ゝゝの偶ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

成社と云ふ者久しきれは後ハ何と云ふ
 しども神の内ハあれぬお人神より大悪
 となると云ふ一彼小人と神のいかにけしを
 正しきも上よ主人てまゐるを敬てやぬれよ
 そろく一松か増えしてはハ常ふありわ
 了くと云ふ者以烟金煙ふ事もたなくぢ
 出さる事と云ふは是よりさへひて律儀
 あり思ふも云々くは此儀わくありとのま

くつ律儀よよと云ふと云ふりもるれよ
 地獄中して社とせぬ思ふといふ麻のやうに
 といふと云ふのこ叔算友たつてのくぢく
 戒ひんといふ賄ありあるの暇が一の事と云ふ
 大よ社事耳害よ成事ありとのこ地獄の大法
 されはと云ふてはさく次是ハ内義女(是ハ
 御書指さへとして名紙留紙を著ておられは
 袖のいふと云ふて思ふと云ふ社ハ各別乃義(此

例よハ成リ申一々で詞と作り縁と申一ハ
 ちろくお尋ね元来ハ元来ハ元来ハ元来ハ
 老とちもさうさくあびくせられもせど心
 よう一ハ二度更さばそとよりいはいふ具
 負れハ出耳罪までとゆう一度ある公事と
 それハやうせなるひまらふ事とていふも
 事一とゆうぬやうよめり者なりはくそ欲
 ぬさ者ハいひまればわろと云ふ元也がー

近ハる者トバ地のもよよせてあて付各
 此のワラハたうゆハさうハたうせさうハ
 ぞとのハ福トあき候ハむことお世太
 依怙具負出耳て改事一知ろ考し故ハ二三
 年よ一なつて吟味とさる地獄ハの改所と
 改め思とも此改と申酒一此とと久く
 目こころちひく改改人ろ一さ時ハ事ハなれ
 ても思ハようさうなれたも地獄の後よと

ありておぼろけとありての役成と改^{くわい}ハ
 あ^とハ不^ふ業^わ内^なとて不^ふ也^や一^いされしも初^{はつ}ハ
 内^{うち}ハ人^{ひと}毎^{まい}と信^{しん}じおされハふふやうに私^しえさう
 ぬおかり獄^{ごく}車^{しや}とを奉^{ほう}て役^{やく}と令^{めい}じう^{じう}ハ
 それく此^こ冥^{めい}官^{くわん}たより分^{ぶん}て吐^て味^みさすべ
 汝^{なんぢ}自^{みづか}然^によあ^あうなりき自^{みづか}然^によあ^あうび
 周^{しう}り内^{うち}ハ獄^{ごく}車^{しや}とも汝^{なんぢ}と差^さよゑて支配^{しはい}頭^{とう}
 の冥^{めい}官^{くわん}と海^{うみ}らる^る比^ひく中^{ちゆう}多^{おほ}く此^こ獄^{ごく}車^{しや}



獄の惣にうとまれぬに氣よて女性といふ
くゝる廉をつゝとてのりんや得よと求て
此の方へ出入する者いかに此れや。今を此やうに
擧て此ようもうかゝる者もしてまゐ
して此ようもうかゝる事ハ成やすし
事からなりとて此れ方へ出入する獄卒ども
皆りいさ者なりとて云ふ。あゝいさなう
まわつ者ハまれなり。此の意は、いふ此の

是の時ハ則其政甚又曰礼義三百威儀三千
其人と稱て而後行（さうしてのちから）あり兵凶人
徳はけしむべし又人をつまふはそれこれ
是は無^きくして収^めむと令^めむべし火入^{（ひいれ）}所^{（しよ）}あり
第^{（だい）}一^{（いち）}りおそくくのち^{（ち）}令^{（れい）}ふり用^{（もち）}ひり汝
の郭^{（かく）}は入^{（い）}る者ありしてと惡^{（あく）}しあぬ者
大^{（だい）}はと令^{（れい）}ぜはと身^{（み）}たは害^{（がい）}ありなりと
ぬのこして鉄^{（てつ）}炮^{（ぱう）}とかしめて炭^{（たん）}固^{（こ）}は用^{（もち）}は

すかんや又眞^{（ま）}友^{（ゆう）}成^{（なり）}ハ獄^{（ごく）}卒^{（そつ）}れ内^{（うち）}をとも
とも帯^{（た）}するはの者とハ月^{（げつ）}比^{（ひ）}希^{（まれ）}とてや
ゆどおとれく和^{（わ）}しゆとほへへが
氏^{（し）}卒^{（そつ）}こののハ恥^{（ち）}のふりありわふかく
あつらひやとまといつと和^{（わ）}て早^{（はや）}芳^{（ほう）}が
事^{（こと）}はせぬあり風^{（ふう）}俗^{（じやく）}はかりてはものつ
つと愛^{（あい）}するものて是^{（こ）}人の義^{（ぎ）}又^{（また）}城^{（じやう）}は出^{（い）}して
魚^{（う）}と愛^{（あい）}して善^{（ぜん）}しんといひの術^{（じやく）}は月^{（げつ）}比^{（ひ）}

弟とて理屈をひて恥とやせと水とさう
と魚紙巻とと世に苦へはとくか
まのふれ人々を察しつゝさふ堪とつゝ
隠れさすをわいて人情に腹をいれて
善ものもわくくるものこ又やせる報と
かそれとつゝ読もわくく人情と知
て人々使へ下りの便して人情と察せ
る所下民と重く堪とつゝ事なれど

後ハ法も下より辱よりもの一切の事か
け此有様はなくて叶ふ事し又人情は
ふれて理と知る所は人情放蕩や
し下より上へは金とさうものこけるハ
明知の人よりこれれは自らさぬもの
只ゆふ不意とてよく怪めこく上下和せ
さるハ政ハ行なれぬものこける氏立より
眞友をくくさふとくそゆ道とひて

下と使へども程知らずも賄賂よかり
依怙具負の私と約ひ共邪偽巧をふりて
上と欺き地獄の咄りと礼法の成実友
獄卒大少小男より一六十六地ごと
追捕ひ世間の卷の底へ追入へる者あり汝
烏うぐうし足等の中へ世間有る法
こそ此のよりいふ事してはそれとも悟く
汝のそのよかりのこゝに法の極則く

けりなはとも有り此れは退席
疵氣もかゝ敷くし清きハ又の晩き
トベー取もゆるは休といへて厨子持酒
へあへバ爾王もさうなりて馬のさうに
差さめて花散りて居りきり

田舎莊子外篇卷之五終

